

1920年代の浅草における映画館アトラクションの舞踊

杉山千鶴

(早稲田大学人間科学部)

1. 問題の所在と研究目的及び方法

浅草は、近代以前から見世物を中心とした興行街を形成していた。1873年1月の太政官布達により浅草公園地に指定され、区画整理された後も、新旧取り混ぜた、様々な大衆文化がひしめき合っていた¹⁾。1920年代には、この浅草で、浅草オペラから浅草レビューへ到る軽演劇の変遷が認められる。浅草オペラは1923年9月1日の関東大震災を機に衰退し²⁾、1927年に幕を閉じる³⁾。かわって1929年7月のカジノ・フォーリーの旗揚げを以て浅草レビューが始まる。この浅草オペラと浅草レビューを繋ぐ、軽演劇の変遷過程に存在するものとして、上演演目と出演者の2点を根拠に、映画館⁴⁾で上演されたアトラクション(以下、本稿では“映画館アトラクション”とする)を挙げる事ができる⁵⁾。

この映画館アトラクションに関し、内山惣十郎は、自らスタッフとして関わった電気館レビュー団のエピソードを交えて、また大笹吉雄と原健太郎は、軽演劇の通史の一環として、揃って浅草レビューの前段階と位置付けている。しかし、いずれも具体的な事象に関する記述に止まり、舞踊が上演されたことや、その出演者に芸術舞踊家や外来舞踊家のいたことは記されていない⁶⁾。村松道弥は、舞踊史の一部として、軽演劇について触れているが、映画館アトラクションに関しては、単なる事象の記述に止まる。また出演者に関しては、村松が河上鈴子の出演に触れたにすぎず⁷⁾、実際に映画館アトラクションに出演した芸術舞踊家の自伝や伝記の中では、唯一エリアナ・パプロバの伝記に、出演の事実が記されている⁸⁾のみである。

一方、当時の舞踊に関しては、片岡康子が、日本ではまだ洋舞界は成立しておらず⁹⁾、しかしモダンダンスの確立する以前の胎動が日本と欧米の双方において認められるという、世界的同時代性を指摘している¹⁰⁾。

そこで本研究では、映画館アトラクションの舞踊に関し、全体像を把握し、その特性と1920年代の軽演劇における意義を、また、芸術舞踊家の出演に着目し、我が国の舞踊史における意義も合わせて、明らかにする。以上を本研究の目的とする。

そこで映画館アトラクションの舞踊の状況を把握するために、都新聞¹¹⁾を元に、1920年代において、浅草の映画館で上演されたアトラクションの全演目と出演者をリストアップし、上演館数の推

移をグラフ化し(図1)、年代順に一覧表を作成した。Ⅱでは、映画館アトラクションの上演された背景を浮き彫りにするため、1920年代当時の映画及び映画館アトラクションの状況を概観する。映画館アトラクションの舞踊は、①舞踊という名称の演目、また舞踊を含む演目として②レビュー(同義の表現としてレヴィュー、レヴュー、レヴェウ、大レビュー、レヴェウ)、③ボードビル(同じくヴォドヴィル、ヴォードビル、ヴォドビル)、④バラエティ(同じくヴァラエティ、バラエテ、ワラエテ)、⑤喜劇歌・オペレッタに分類できる¹²⁾。そこで先の一覧表より①~⑤を抽出し、改めて表を作成した(表1)。Ⅲでは、まず表1に示された出演者を、(1)出演の時点或いはその後現代舞踊やバレエなどの芸術舞踊へ進み活動した芸術舞踊家、(2)外来の舞踊家或いは舞踊団、(3)浅草オペラ出身者、(4)映画館或いは映画会社の専属団体、(5)その他、に分類した。次に分類した出演者を、先の①~⑤ごとに、都新聞の上映広告や当時の資料、文献の関連記述と合わせて考察し、主に上映広告の記載事項より、映画館アトラクションの舞踊の全体像を把握すると共に、特性を明らかにする。そしてこの特性を元に、1920年代の軽演劇における、また芸術舞踊家の出演を元に、日本の舞踊史における意義を明らかにする。以上が本研究の方法である。

本研究では、映画館アトラクションを、浅草オペラから浅草レビューへと到る、1920年代の軽演劇の変遷過程に位置するものと看做す。そして1920年代を、1917年1月より1933年3月までと設定する。1917年1月とは高木徳子一座の浅草進出により、浅草オペラが開幕した時期である。1933年4月には笑の王国が旗揚げしたが、これは従来の浅草レビューとは異なり、喜劇色を前面に押し出している。そこで、浅草オペラからの流れを引いた、歌あり踊りありの浅草レビューを、この笑の王国の旗揚げ以前の1933年3月までとする。また映画館アトラクションの舞踊に関しては、浅草オペラが衰退したと考えられる¹³⁾1927年10月以降の時期¹⁴⁾に、浅草の映画館で上演された洋舞に限定する。

II. 1920年代の映画及び映画館アトラクションの概観

II-1. 1920年代の浅草における映画の状況

映画（活動写真）は、舞台上で上演するエンターテインメントにはない魅力に満ちていた。その写実性・迫真性とスペクタクル性は、映画にこそ可能であった¹⁵⁾。また尾上松之助¹⁶⁾に代表されるスターの存在、無声映画期の活動弁士¹⁷⁾の名説明、洋画を通じての欧米のライフ・スタイルの実感も、映画ならではの魅力であった。特に浅草では、新着洋画や新作邦画を他に先駆けて上映したために、大勢の観客が映画館に押し寄せた。関東大震災により、浅草の映画館は壊滅状態に陥った¹⁸⁾ものの、年内の12月22日には日本館、同25日には松竹館と電気館がバラック建てながらも上映を再開しており、映画に対する需要の高さと強さが窺われる。しかしそれほど隆盛ぶりが、しばしば取締を招いている。1917年8月1日には活動写真取締規則、1929年5月にはその改正案として興行場及び興行取締新規則が出され、1931年1月と8月には追加規定が設けられた。浅草では、映画館側がこのような取締に対応しており、呼込み人の解雇、大看板の撤廃、看板・幟の内容の吟味を自主的に決定するなど、映画興行を守ろうとする姿勢が認められる。

1929年5月にアメリカ映画「進軍」が、日本における最初の本格的発声映画として電気館で上映された。これを機に洋画上映館はトーキー再生装置を設置し、浅草にもトーキー時代が訪れた。1931年2月に封切りのアメリカ映画「モロッコ」では字幕が採用された。一方の邦画は、同年8月に至って日本最初の本格的トーキー映画「マダムと女房」が公開された。しかしトーキー製作は多額の資本を必要とするため、全面的移行に踏み切ることができず、また映画館側も設備面においてトーキーに対応するまでには到らなかった。

1920年代は、無声映画の黄金時代にあり、トーキー時代へと向かって歩み出した段階にあった。そして浅草では、映画は、数ある大衆文化の中で最も大衆を集めたのである。

II-2. 1920年代における映画館アトラクションの概観

無声映画期には、上映中に伴奏を務めるオーケストラが、休憩時間にクラシック音楽を演奏していた¹⁹⁾。このオーケストラの演奏技術の向上により、音楽を含む多様な演目の上演が可能となった。また、1927年3月の金融恐慌と1930年の昭和恐慌による不況が円価暴落を招き、フィルム不足に

陥ったため、映画のみの興行では観客動員が困難になった。このような背景により、上映の間にアトラクションが上演されるようになった。映画館アトラクションは、1928年までは器楽演奏や歌唱がほとんどだったが、1929年以降は舞踊の他、レビュー、ボードビル、バラエティ等、舞踊を1場面として含む演目の他に、映画の1場面を上演する実演や、喜劇、新劇、奇術、漫才、浪花節、拳闘試合なども上演された。

浅草オペラ衰退後、アトラクションを上演した映画館数は、1930年にピークを迎える（図1参照）。しかし1932年の10月以降には4館に激減しており、1932年の後半には衰退に加速度がついたと言える。このような映画館アトラクションの盛衰は、映画の変遷に同期している。トーキーの到来により、専属のオーケストラやジャズバンドが解雇されると、特に生演奏を必要とする演目が減少する。そして字幕が普及し、本編の映画の間に短編の喜劇映画やニュース映画が上映されるようになると、全体的に激減に向かう。無声映画では、出演者のセリフは、弁士の声色を駆使した説明に頼らざるを得ないのに対し、映画館アトラクションでは、直接肉声を聴き、その姿を目の当たりにすることで、臨場感を味わうことができた。しかしトーキーの登場により、この魅力は半減する。さらに短編映画やニュース映画が、上映時間の短さ、また舞台転換を必要としない簡便さによって、映画館アトラクションに取って代わるのである。

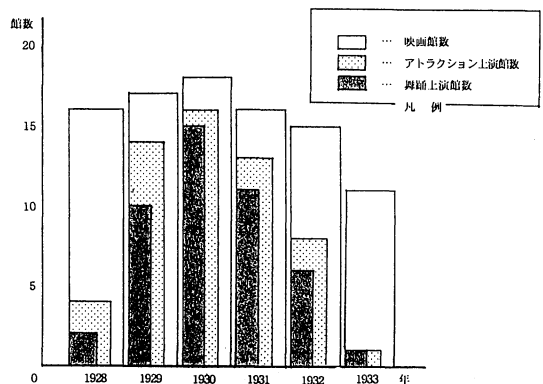


図1 アトラクション上演の映画館数

映画館で舞踊の上映された1928年6月より、本研究において1920年代と看做す1933年3月までの期間に、都新聞東京版に掲載された遊覧案内、上映広告及び演芸欄の記事より、浅草の映画館に限定して数え出し、作成した。

III. 1920年代の浅草における映画館アトラクションの舞踊

都新聞によると、浅草オペラ衰退後、映画館アトラクションの舞踊が最初に上演されたのは、1928年6月15日からの電気館のプロロオグであり、

藤田・堺舞踊研究所所員が出演した。これ以後、映画館アトラクションの舞踊の上演された館数は、図1の通りであり、映画館アトラクションに同期した隆盛を見せていることが窺われる。

次に出演者について、①舞踊、②レビュー、③ボードビル、④バラエティ、⑤喜歌劇・オペレッタの、上演演目ごとに述べる。なお、ここでは、上映広告に宣伝文句の掲載された者を中心に述べる。個人名・団体名の後の（ ）内は、出演した映画館を指す。‘ ’は上映広告からの引用であり、“ ”はその他の引用である。

III-1. 出演者別に見た映画館アトラクションの舞踊

III-1-(1)芸術舞踊家

④バラエティと⑤喜歌劇・オペレッタに関しては、上演したという記録を得られなかったので、省略する。

①舞踊

藤田・堺舞踊団（電気館）を率いる藤田繁と堺千代子は、浅草オペラ期に高田雅夫に入門、タカタ舞踊団に参加した。独立後舞踊団を組織し、1928年5月に朝日講堂で第1回発表会を開いて以後、映画館には積極的に出演しているので、初期の活動の中心としていたと言える。ハリウッド舞踊団（同）は、伊藤道郎の、ハリウッドでの門下生であるが、邦人・米人混合が珍しかったものと思われる。与世山彦士舞踊団（日本館）の与世山は、エリアナ・パブロバ門下であり、既に芸術舞踊家として評価を得た後の、活動の一環だったと言える。大勝館では1930年12月31日から1931年5月まで、集中的に舞踊を上演している。高田雅夫亡き後の高田せい子舞踊団〈写真1〉や岩村舞踊団出



写真1 高田せい子舞踊団「情怨」（松竹座）
松竹座ニュース1930年6月19日発行

身者による東都舞踊座が出演した。春野芳子はエリアナ・パブロバ門下で、正当なクラシックバレエを学んだが、半裸姿で踊り、男性ファンを集めた。南栄子は大阪松竹楽劇部出身で、チャールストンで売り出した。チャールストンは腰を振ったり、尻を突き出して腕を振り回すため、‘エロの女神’と称された。河上鈴子〈写真2〉は、上海でバレエと民族舞踊を習得し、上海・ニューヨークを始め、各国で活躍した後に帰朝した、‘世界的舞踊家’の逆輸入の例であり、‘脚に3万円の保険を掛け’るなど、話題性に富んでいた。



写真2 河上鈴子「瀕死の白鳥」（大勝館）
都新聞1931年4月17日

② レビュー

石井漠舞踊団（松竹座）〈写真3〉を主宰する石井漠は、浅草オペラ出身であり、日本の現代舞踊の草創である。石井は浅草オペラで、“浅草は芸術を製作するところではない”²⁰と悟り、自らの意志により浅草から飛び出した。1回限りの出演なのは、本人の体調不良や当時の精神的な活動に追われたこと他に、浅草に対する考えは変わらないものの、義理があり、また浅草での活動がいかに知名度を高めるかを、身を以て知っていたための里帰りだったと考えられる。やはり浅草オペラ出身の、高田せい子率いる高田せい子舞踊団



写真3 石井漠舞踊団「歓楽を追ひて」（松竹座）
都新聞 1930年2月21日

(同)は、高田が松竹楽劇部の洋舞指導を担当していた関連による出演と思われる²¹⁾。エリアナ・パブロワ舞踊団(同)は、「瀕死の白鳥」を始め、レパートリーのクラシックバレエを上演した(図2参照)。河上鈴子(大勝館)は、種類豊富な舞踊歴に基づいた、レパートリーの広さを見せた。電気館では1930年5月22日より10週にわたり‘パラマウント・ショー’を上演、これには藤田・堺舞踊団、春野芳子(他に浅草劇場、大勝館)、南栄子(他に帝国館、河合キネマ、大勝館)、福井茂舞踊団、新興舞踊座、ヴェルディ・ダンス・トップが出演した。福井茂舞踊団は、福井の軽快で洒落た舞踊と‘エロ100%の脚どり’の女性ダンサーの淫漣たる姿で人気を得たが、実際は‘本格的’な舞踊であり、エロは100%に及ばなかった。新興舞踊座は岩村和雄の息子・信雄の一門である。‘絢爛’な空間を造り出したのは、照明家だった岩村和雄の影響であり、また音楽のリズムを重視したのは、リトミックの指導を受けたことによるものと思われる。ヴェルディ・ダンス・トップは、橘秋子をはじめ、エリアナ・パブロバ門下のグループであり、正当なクラシックバレエを学んだ成果を発揮して、洗練された舞踊を見せ、洒落た印象を与えた。



図2 上映広告①(松竹座) 都新聞1930年5月1日

③ ボードビル

タカタ舞踊団(松竹座)は、高田雅夫の新作で松竹楽劇部と共演した。その作品は、高田が浅草オペラで発表した数々のボードビルのように、欧米で流行中の音楽を用いた、ミュージカル形式であった。‘高速度喜劇’と称し、むしろ後の浅草レビューのスピーディな展開を思わせるが、浅草では、高田は浅草オペラのボードビルの作家として知られていたために、ボードビルという名称にしたと思われる。この他に藤田・堺舞踊団(電気館、帝国館)が新舞踊を発表しており、映画館アトラクションという場を活用している。

芸術舞踊家のほとんどは現代舞踊家であった。既に活動を行っており、その一環として映画館へ出演した者が多く、上演内容も映画館以外での舞

踊公演とはほぼ同様であった。

Ⅲ-1. -(2)外来舞踊家

④バラエティと⑤喜歌劇・オペレッタに関しては、上演したという記録を得られなかったので、省略する。

① 舞踊

ロシア貴族兄妹舞踊家(日本館)の他は、全て松竹座への出演である。オリムピア・フォーリー舞踊団の出演は7週に及ぶ。若い‘美人’が淫漣と踊る様子は、‘鮮烈’と形容され、いかに珍しく、刺激的であったかが窺われる。これに対し、セルヴィアン舞踊団はエロを謳わず、大らかで、笑い(esprit)の効いた内容であった。フライングバレエ空中舞踊団は、ロシア人女性が天女よろしく空中で軽やかに踊った。そのため大掛かりな装置を用いたと推測されるが、松竹座のような大規模な映画館だからこそ上演可能だったと言える。ニーナ・アンタレスとペーパ・ポピーニナの軽快な‘ルシアンダンス’、ブラックバード舞踊団の黒人による陽気な‘ジャズダンス’の他に、ハワイアン芸術も紹介された。

② レヴュー

いずれも松竹座に出演した。ホリーデビル舞踊団は男女混合の舞踊団(写真4)だが、‘ロシア美人’と女性の出演を強調した。グリゴリエフ・クリューベリとブラック・エンド・ホホワイト舞踊団の金髪美人は、‘エロダンス’を踊った。ハルビン舞踊団は、ロシア美人が‘ウルトラエロの世界’を現出した。

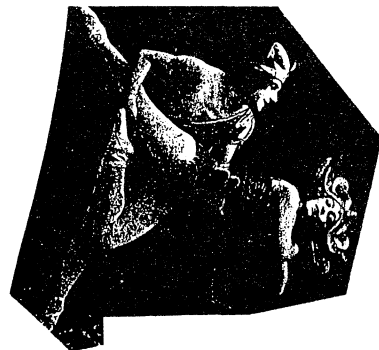


写真4 ホリーデビル舞踊団(松竹座)
ラ・レビュー号外1929年10月16日

③ ボードビル

電気館ではボードビリヤンのケエラルフ・ハーピスツ一行が、振袖姿でのカッポレや元禄花見踊を上演しており、日本での出演に対する意識と観客受けの意図が感じられる。

外来舞踊家のうち、白人女性には‘美人’‘エ

ロ'を謳い、上演内容に関しては軽快で淫漑とした印象を与える語句が多い。従ってエロダンスとは、白人美人の出演を意味したと言える。一方、エロを謳わない場合は、外国人という珍しさが魅力となった。

Ⅲ-1. -(3)浅草オペラ出身者

③ボードビルに関しては、上演したという記録のみで他の記述を、④バラエティに関しては、上演したとの記録を得られなかったので、省略する。

① 舞踊

河合澄子舞踊団（日本館）〈写真5〉を率いる河合澄子は、'エロの本家本元'を自称し、上映広告では'エロ女王'の称号を頂戴し、上演内容も必ずエロと形容された。このような'エロ'の乱用は、河合が、浅草オペラでは発展女優の“代表格”²⁹¹であったことを思い起こさせる²⁹²。エロエロ・レビュー団（同）を率いる白川澄子も、浅草オペラでは未成年ながら発展女優として人気を博した²⁹³が、'エロ' 'イットガール'²⁹⁴と形容されたのは、個人ではなく舞踊団であった。河合は、自身の名前を舞踊団の名称に冠すことによって、過去の盛名に頼った宣伝効果を期待したと言える。一方の白川は、河合と同じ発展女優だったものの、発展度においては河合には遠く及ばず、従って河合澄子という個人名に匹敵する、インパクトのある名称として、ずばり'エロエロ'を用いたと考えられる。



写真5 河合澄子舞踊団（日本館）
音楽舞踊グラフ1930年8月号

② レビュー

浅草劇場には、浅草オペラ出身者が最も多く出演している。林一夫率いるハヤシ楽劇団（他に日本館、開盛座には専属楽劇部と共演）、河合澄子舞踊団（他に日本館、遊楽館）の他、藤村梧朗は北村猛夫とのグループ（他に東京館）や松山浪子とのグループ（他に遊楽館、常盤座）で出演している。藤村・北村グループの作品「裸形大行進」〈写真6〉の内容は、舞踊や小唄、流行歌の「月光価千金」「モガ・モボ・ソング」であり、藤村・松山グループの作品「東海道特急」は'裸形大乱舞'を謳ったが、東海道本線沿線の各風景を描写した作品にすぎず、作品の構成からはエロチシズ



写真6 藤村・北村一座「裸形大行進」（東京館）
都新聞1930年6月24日

ムは感じられない。従ってこの場合の「裸」とは、露出度の高い衣裳の着用を指すにとどまる。さそり座（観音劇場）は、既に浅草レビューにおいて活動中であり、場を移しての公演と言える。その上座員は、既に他の団体に映画館アトラクションに出演したことがある、お馴染みばかりであった。

⑤ 喜歌劇・オペレッタ

次田勝・田谷力三らと、杉寛・木村時子らが電気館で、浅草オペラではお馴染みの作品²⁹⁵を上演した。かつて浅草オペラは映画に迫る隆盛を見せたので、このような演目には、オペラ・ファンを集めることが可能になるという、浅草オペラの威光を認識した上での集客の意図が見えてくる。但し作品は全く同一ではなく、場所や出演人数等の状況、或いは観客受けに応じて、多少改定した²⁹⁶と考えられる。

浅草レビュー開幕後は、レビューはエロ、イット、裸を謳うようになる。これは浅草レビューがエロ・レビューの別称をもち、浅草オペラ出身者が多く活躍したことに倣った、戦略的なものだったと考えられる。

Ⅲ-1. -(4)専属団体

③ボードビルに関しては、上演したという記録のみで、他の記述を得られなかったので、省略する。

① 舞踊

松竹楽劇部（松竹座）は、全国規模の大興行会社・松竹がスタッフを揃え、充実した付属養成機関を設置して、育成した団体である。専門家の指導を受けた部員が出演し、衣装や舞台装置は大規模且つ豪華絢爛だった〈写真7参照〉ので、“単なる余興”²⁹⁷ではありながら、本編の映画に匹敵する、単独公演と言えるものであった²⁹⁸。

② レビュー

松竹楽劇部（松竹座）は、大興行会社に支えられた豪華絢爛な舞台面と、華やかな衣裳に身を包んだ大勢の出演により、観客を圧倒した。電気館レビュー団は、浅草オペラ全盛期の再現を企図し、

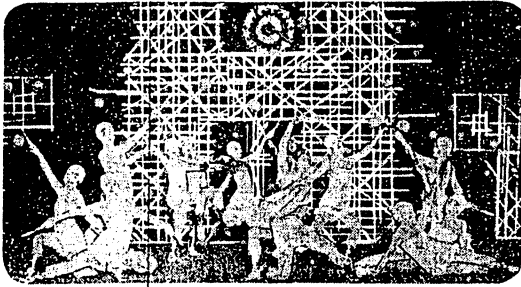


写真7 松竹楽劇部「世界の東京」(松竹座)
都新聞1930年3月18日

当時のスターを集めて、1929年2月に結成された。ズロースと、胸にベールを巻くだけの姿で踊る‘ハダカダンス’で話題を巻き、これ以後は上映広告にエロを謳わずとも、期待させることとなった。流行のジャズ音楽を多用した先取性と、かつて浅草オペラでスターになった、つまり浅草で受容され認められた者の出演により、最も浅草的で‘粋’であった(図3参照)。松竹館レビュー団(浅草劇場)の振付は、石田守衛と黒木憲三が担当した。石田は浅草レビューの嚆矢・カジノ・フォーリーで舞踊の、黒木は震災後の浅草オペラでボードルの振付を担当している。従って石田の作品は、カジノに参加する以前の実験的な試みであり、それを後に活用したと推察できるので、浅草レビューの前段階に相当するものだったと言える。他に帝キネ花形座(常盤座)は‘珍芸’を、帝キネ舞踊楽園(同)は喜劇を上演した。日本劇場専属の日劇舞踊団(大勝館、電気館)の付属学校では、石井漠や河上鈴子の他にも、モンターニュ女史がトウダンスの指導のために招聘された。映画館への出演を巡り、学校側と、浅草を蔑視する父兄との間に確執が生じたというエピソードもあり、団員の舞踊は、芸術舞踊を学んでいるという自負の元に、技術的に高い水準にあったと思われる。日活レビュー団(富士館)では谷幹一が、舞踊と称してトリックを用いた珍妙な芸を見せたが、これは飽くまで‘珍芸’の域だったと思われる。



図3 上映広告②(電気館) 都新聞1929年2月1日

④ バラエティ³¹⁾

フジワラエティ(富士館)は、富士館が邦画上映館でありながら、アメリカをかなり強く意識した内容を上演した。これは、アメリカに倣ったモダニズムの風潮に乗ったため、と考えられる。帝キネ花形座(常盤座)は、‘エロ・グロ・ナンセ

ンス’のうちのエロに相当するものとして、舞踊を上演した。

⑤ 喜歌劇・オペレッタ

松竹座が1931年5月31日よりレビュー専門劇場に移行した後に、松竹楽劇部(電気館)が上演した。松竹スタッフの製作したオリジナル作品であるが、むしろレビューに近かったと考えられる³¹⁾。映画館や映画会社・劇場の専属団体は、養成機関による充実した教育指導を受けた、見応えのある舞踊や、浅草オペラ出身者による手馴れたもの、エロとナンセンスを謳うものなど、各々がそれぞれ特色を打ち出して、多様なものを上演した。

Ⅲ-1. -(5)その他

③ボードビルと④バラエティに関しては、上演したという記録のみで他の記述を、⑤喜歌劇・オペレッタに関しては、上演したとの記録を得られなかったので、省略する。

① 舞踊

OKコーラス舞踊団(松竹座)、ファンシーフォーリーズ懐美舞踊団(電気館)等の、幼い少女の出演は、エロとは無縁であるが、珍しさが魅力となったと思われる。

② レビュー

川上児童楽劇団(富士館)は、川上貞奴の経営する、演劇・音楽・舞踊の養成所であった。舞踊は高田雅夫が指導した。高田は多くの舞踊家を育成したが、ここでも、映画館へ‘請われて出演’するほど、十分な指導・養成を行ったのである。美人座(千代田館)は、上映広告にエロを謳わず、名称を戦略的に用いた例と言える。この他に挑発的な宣伝文句で観客を誘うアイラブユー・レビュー団(常盤座)‘モダンエロ’を謳った混線スピード劇団(同)、喜劇を主とする青春座(日本館)が出演した。月形龍之介一党(松竹座)は、エロ全盛の中で、‘男児の気魄’に満ちた剣劇レビューを上演した。岡田嘉子一座(同)は当初は新劇を、後にはレビューと称した作品を上演したが、実際は演出の手法をレビュー風にした新劇にすぎなかった。羽田歌劇団(同)の華やかさは、10代半ば~20代半ばの総勢50名が大挙して軽快に踊る様子と、照明効果によると思われる。当初は‘羽田歌劇’を称したが、仮名表記では‘ハダカゲキ(裸劇)’になると新聞記事に紹介されるや、警視庁より注意を受け、‘ハダダンス’と改名した。それは露出度の高い衣裳を着用した半裸体での、アクロバチックな上演内容(写真8)を反映したエピソードでもある。‘広島名物エロガール’の称号を得、浅草の人気を集めた。

エロや裸を謳ったレビューが多い一方で、月形一派や岡田一座、川上児童楽劇団が、レビューの名称で、見応えのある内容を見せた。



写真8 羽田歌劇(松竹座)
松竹座ニュース1930年9月17日発行

III-2. 上映広告に見る映画館アトラクションの舞踊の特性

上映広告には、映画館アトラクションに、本編映画に等しいスペースを割く例が散見される(図2・3参照)。このように映画館アトラクションは、単なる余興にとどまらない内容と観客動員力を有したのであり、当時の映画の隆盛の一因を担ったと言える。そのため上映広告では、より多くの観客の動員を意図し、観客の求めるものを宣伝文句として掲載した。

上映広告には、「美人」「脚線美」「裸」「エロ」という、女性出演者とそのエロチシズムに関する語句が多く掲載された。「美人」は、特に外来舞踊家に見られた。映画館は狭い空間であり、観客は出演者をごく間近にするために、容貌の美しさも求められたのである。「脚線美」に関しては、当時の女性の洋装化³²⁾により、脚部が露出し注目を浴びるようになったという文化的背景の他に、むき出しの肌色の脚は全身に占める割合が大きく、視覚的なアピール度が高いために、その美しさを強調したと考えられる。「エロ」と「裸」は、エロチシズムをストレートに打ち出す語である。しかし「裸」は露出度の高い衣裳の着用、すなわち露出した身体-もちろん脚部も含む-を、「エロ」は出演者の身体の露出と、そのような半裸体で、踊るという行為を指すと考えられる。従ってエロチシズムは、「裸」同然に露出した身体と、その踊る姿の、双方を見て感じられたと言える。但し、これらの語句を全く用いない例もあり、その場合は、見慣れない、或いは、見たことのないという珍しさと目新しさを、大きな魅力としたと言える。

一方、出演者の技術や表現力などに対する評価・形容、また上演内容の芸術性を問う語句は認められなかった。それは、観客が映画館アトラクションの舞踊に対して求めなかったからとも言える。しかし芸術舞踊家は例外であり、舞踊歴や得意な分野をアピールしているものの、これは単に観客の好奇心や興味を一部そそぐに過ぎない。

この他には、上演作品の明るさ、華やかさをアピールしたものも多かった。観客は、上映中は、閉塞した暗転の空間の中で2次元のスクリーンへ

の集中を強いられる。それが、照明が付き、脚線美や美人の、大勢の女性ダンサーが現れて颯爽と踊るといふ、一転した空間に曝される。この、上映中とは正反対の、照明に照らし出された中で、脚線美や美人の女性ダンサーが踊っている様子が、明るく、華やかなのである。従って明るさ・華やかさは、「美人」・「脚線美」を、要素として含んでいたと言える。一方でこのような空間の一転により、館内では前の上映作品の空気が一掃されて、観客も気分転換や頭休めが可能になり、五感が一新され、次の映画作品の観賞に臨む体勢が整ったのである。

映画館アトラクションの舞踊は、女性ダンサーが観客に対し、露出した身体と、そのような姿で踊るといふ行為により、エロチシズムを感じさせ、また観賞の効果として、気分転換の機会を与えるという特性を有したのである。

III-3. 1920年代の軽演劇の変遷における映画館アトラクションの舞踊の意義

浅草オペラの舞踊は、“股上げ踊り”と称された舞踊運動と、タイトの着用により浮き出た脚部により、エロチシズムを醸成した。また、浅草レビューの舞踊は、集団による匿名性の脚部により、エロチシズムを醸成すると共に、爽快感・解放感という観賞効果を生んだ³³⁾。1920年代の軽演劇の変遷において、舞踊は、浅草オペラにおける、行為と身体によるエロチシズムの醸成から、浅草レビューにおける、身体によるエロチシズム醸成と観賞効果の付与へと変容している。映画館アトラクションの舞踊における、身体によるエロチシズムの醸成は浅草オペラと浅草レビューの双方に、行為によるエロチシズムの醸成は浅草オペラに、観賞効果の付与は浅草レビューに共通している。これにより映画館アトラクションは、新たに舞踊の特性を根拠として、1920年代の軽演劇の変遷、すなわち浅草オペラから浅草レビューへと到る変遷の、過程に位置付けることができる。

映画館アトラクションは、上映の合間の上演のため、時間上の制約を受けた。さらに映画館アトラクションの舞踊は、複数の場面や他の出し物と共に構成されたため、ノンストップでスピーディな進行とスムーズな展開を強いられた。これはレビューの特性³⁴⁾と共通する。また上演演目に、単なる名称として「レビュー」「ボードビル」「バラエティ」を用いているが、これらの使い分けは厳密にはなされておらず、実際は全てがレビューと同じ形態であった。従って映画館アトラクションの舞踊は、浅草レビュー以前に、レビューの形態を、初めて浅草の大衆に紹介したと言える。同時に“レビュー”という、従来はなかった名称も、

新しもの好きの浅草の大衆に紹介したのである。映画館アトラクションの舞踊は、後に短編映画やニュース映画に駆逐され、また、この目新しさにエロと珍しさを伴って観客動員の一大因になりえるという、興行上の理由もあって、映画館の単なる余興から独立し、後の浅草レビュー全盛の一助となるのである。

III-4. 舞踊史における映画館アトラクションの舞踊の意義

芸術舞踊家は、松竹座、電気館、松竹館、大勝館という、いずれも松竹専属或いはチェーン館に出演した。中でも松竹座は、開場時の入場料は3円50銭・1円50銭・80銭、その後は1円50銭・1円・60銭とランク分けされ、最低料金でさえ、日本館や帝国館の40銭よりも高額であり、高級感を印象付けた。また新着洋画を、他に先駆けて上映する専門館であり、浅草で最も収容人員の多い映画館でもあった。松竹という大資本会社の威光を浴び、その資本力によって、外来舞踊家や芸術舞踊家の公演のほとんどを上演することにおいては他の追随を許さず、映画館の中でも上位に格付けされたことが推察できる。この松竹座は途中レビュー専門劇場に移行し、映画館アトラクションの舞踊は、代わって松竹系列の大勝館で集中的に上演される。これにより松竹という興行会社が、映画館アトラクションの中でも、特に舞踊に力点を置いたことが窺われる。芸術舞踊家にとって、浅草の映画館への出演とは、日劇舞踊団のエピソードにもあるように、低級・低俗なものに満ちた場所³⁵⁾での、本編映画の余興を意味し、価値のない、むしろ自身の活動歴に傷をつける行為であった。しかし松竹座であれば格も高く、その資本力によって高額の出演料も期待でき、また映画そのものが、浅草に渦巻く多種多様な大衆文化の中で最も隆盛しており、多くの人々が集まるために、知名度を高めることが可能となる。このような魅力が動機となって、芸術舞踊家は映画館に出演したと言える。芸術舞踊家は、映画を提供する場を利用し、余興に甘んじながら、舞踊と氏名の普及の為に、芸術よりも享楽を求める大衆におもねったのである。

映画館アトラクションに出演した芸術舞踊家のほとんどは、現代舞踊家であった。浅草オペラ出身で、日本の現代舞踊の草創にあたる石井漠と高田雅夫・せい子は、いずれも浅草を離れて芸術舞踊の活動に専念し、定期的に公演を開き、意欲的に新作を発表していた時期であった。他の芸術舞踊家も、公演活動を始めたばかり、或いは既に始めており、自身の活動の一部として、映画館アトラクションに出演した。従って日本の現代舞踊は、

この時点では、確立には到らずとも、ジャンルとして成立した段階にあったと言える。そして映画館アトラクションの舞踊は、我が国における舞踊史の、現代舞踊の成立期の1つの公演形態として位置付けることが可能となるのである。

IV. 結論

1920年代の浅草の映画館において、アトラクションで上演された舞踊に関し、以下の事柄が明らかにされた。

第一に、女性出演者は、1つにはエロチシズムの醸成、1つには浅草の大衆に対し気分転換の機会を与えるという役割を担っていた。

第二に、エロチシズムの醸成と観賞効果という2点を根拠として、映画館アトラクションを、1920年代における軽演劇の変遷過程に位置付けることができた。

第三に、レビューの名称とその形態を、初めて浅草の大衆に紹介した。

第四に、芸術舞踊家の出演は、松竹という大資本の力と、浅草という土地柄と大いに関わっていた。

第五に、芸術舞踊家の活動により、現代舞踊の成立期に位置付けることが出来た。

映画館のアトラクションは、同じ1920年代における軽演劇でありながら、浅草オペラや浅草レビューほど脚光を浴びることはない。また多数の芸術舞踊家の出演が認められるにも関わらず、これまでに詳細を明らかにされることはなかった。本研究は上映広告のコピーを主要資料として概観したに過ぎない。当時の芸術舞踊界の動向との比較や、上演された作品の内容まで踏み込むことによって、映画館のアトラクションの舞踊の特性とその意義は、日本の舞踊史において、より一層浮き彫りにされると思われるが、それは今後の課題とする。

【謝辞】

本稿執筆にあたり、お忙しい中を御指導下さった、お茶の水女子大学の片岡康子先生と本田郁子先生に、深く感謝申し上げます。

【註及び引用文献】

- 1) 1884年1月浅草公園(浅草寺境内地)は6区画に分割され、このうち六区は、東京府知事名の御達により、興行・遊覧場・飲食店の集中する特殊地域に定められた。以後はこの六区を中心に興行街が形成される(台東区役所、1966、『台東区史』社会文化編、台東区役所、pp.299-300.)。1903年10月に六区の電気館が日本最初として開場したのを皮切りに映画常設館が続出し、浅草

- は映画を中心とした興行街となった（竹村民郎、1996、『笑楽の系譜』、同文館、p.84.）。西条昇は1890年代～1960年代前半の浅草六区を、その劇場や映画館の集中ぶりから、‘日本のブロードウェイと呼ぶにふさわしい劇場街’としている（西条、1988、『喜劇王達の楽天地』、『東京人』8月号、p.54.）。本論文では“浅草”を、この浅草六区を含めた、興行街全体を指すものとする。
- 2) 浅草オペラが、関東大震災を直接的な原因として壊滅したとする先行研究もある（内山惣十郎、1967、『浅草オペラの生活』、雄山閣、p.111.、石川弘義、1981、『娯楽の戦前史』、東書選書、p.86.、村松道弥、1985、『私の舞踊史』上巻、テス出版、p.61.）。しかし都新聞を追うと、震災後も以前と同様に歌劇団の活動が認められるので、関東大震災は衰退の契機を与えたに過ぎないと言える。
 - 3) 13) 杉山千鶴、1990、『浅草オペラから浅草レビューへの変遷-1920年代の浅草の軽演劇の流れと変遷過程に存在するもの-』、お茶の水女子大学人文科学紀要第43巻、p.194.
 - 4) 本稿では、1917年には活動写真を映画と言い始めた（南博・社会心理研究所、1965、『大正文化年表』、『大正文化1905-1927』、勁草書房、p.15.）ものとし、無声映画時代の活動写真を上映した活動写真館、トーキー上映館を、一括して“映画館”とする。
 - 5) 杉山、上掲3)、p.200. 尚、本稿では映画館アトラクションのうち、舞踊という演目ならびに舞踊を含むと思われる演目を“映画館アトラクションの舞踊”とする。
 - 6) 内山、前掲2)、pp.138-145.、大笹吉雄、1986、『日本現代演劇史』大正・昭和初期編、白水社、pp.198-200.、原健太郎、1994、『東京喜劇-アチャラカの歴史-』、NTT出版、pp.98-108.
 - 7) 村松、前掲2)、p.175.
 - 8) 白浜研一郎、1986、『七里ヶ浜パヴロバ館』、文園社、p.123.、p.126.
 - 9) 片岡康子、1985、『日本の現代舞踊の成立過程-デニシヨーン舞踊団の日本公演を中心として-』、お茶の水女子大学人文科学紀要第38巻、pp.94-95.
 - 10) 片岡康子、1986、『時代の芸術家としての石井漠-1920年代の西洋文化流入と舞踊-』、ダンスワーク NO.36、pp.18-19.
 - 11) 東京新聞の前身に相当する都新聞は、東京市内の主な劇場や映画館の遊覧案内を毎日掲載し、演芸欄には批評、動向、楽屋話、公演案内等の情報を満載していた。
 - 12) 松井翠声はバラエティを例に挙げ、映画館によって、その内容は独唱のみ或いは舞踊のみと異なり、バラエティの本来の意味を成さないとしている（松井、1929、『アトラクション』、『キネマ旬報』4月号、p.55.）。このように上演演目の分類に関しては、上演内容の判別が困難であるため、映画館が上映広告・案内に掲載した演目名を基準とした。そのため同一映画館・同一出演者であっても、異なる演目に分類されることがある。また舞踊のみの上演であってもレビューを称する場合もある。
 - 14) 都新聞遊覧案内欄によると、映画館アトラクションの舞踊の最初は、1917年1月に富士館で、余興と称して上演されたトーダンスである。但し出演者等の詳細は不明。これに続き1918年3、4月には電気館で専属歌劇団がトーダンスやスパニッシュダンスを上演した。団員は、帝劇歌劇部出身の山根千世子、歌川蘭子ら4名であった。
 - 15) 例えば大群集の出演（平井正、1983、『マス・メディアの発展』、平井他編『都市大衆文化の成立』、有斐閣、p.101.）、俳優の全力疾走（佐藤忠男、1995、『日本映画史』第一巻、岩波書店、p.31.）などが挙げられる。
 - 16) 1875-1926。旅回り一座の座頭役者だったが、牧野省三監督に見出され映画界入りし、1000本余の主演映画を残した。映画は文化的・技術的に低い水準にあったが、小学校の男子生徒を中心に人気を集めた（田中純一郎、1975、『日本映画発達史』、中公文庫、p.230.）。
 - 17) カツベンこと活動弁士は‘暗闇の芸術家’であった（原、前掲6）、p.182.）。
 - 18) 関東大震災により、東京市内で焼け残った映画館は新宿武蔵野館1館のみであった（台東区役所、前掲1）、p.393.）。
 - 19) 1909年9月にはオペラ館で、フィルム交換の休憩時間に管弦楽の演奏が行われた（芸能史研究会編、1990、『日本芸能史7近代・現代』、法政大学出版局、p.114.）。
 - 20) 石井漠、1951、『私の舞踊生活』、大日本雄弁会講談社、p.56.
 - 21) 全国の松竹座チェーンの発行している『松竹座ニュース』によると、高田雅夫・せい子夫妻は舞踊団を率いて、浅草松竹座以前に、道頓堀松竹座へ数回出演している。
 - 22) 凸面郎、1919、『爛れたる彼女の生活』、『花形』6月号、p.130.
 - 23) 河合澄子の発展ぶりに関しては、以下を参照。杉山、1999、『浅草オペラの女優達』、早稲田大学人間総合研究科ヒューマン・サイエンス第10巻第1号、pp.50-51.
 - 24) 「歌劇ロマンス」9、都新聞1919年2月14日
 - 25) イットは、クララ・ボウに象徴される、パーソナリティとしての性的魅力、セックス・アピールを意味する（亀井俊介、1992、『サーカスが来た!』、岩波書店、p.296.）

- 26) 田谷等による「軍艦ピナフォア」はサリバン作曲、1918年11月16日歌劇三派大合同公演初演（駒形劇場）。杉・木村等による「嘘の世の中」は益田太郎冠者作、1922年7月24日根岸歌劇団総出演公演初演（金龍館）。いずれも再演を繰り返している。
- 27)、31) 但し川口松太郎はオペレッタの垢抜けたものもレビューの一種と看做している（川口、1930、『先端を行くレビュー』、誠文堂、pp. 7-8.）。これにより、浅草オペラ当時から多少改定して上演した可能性も考えられる。
- 28) 松井、前掲12)、p.55.
- 29) 松竹楽劇部がアトラクションで上演したレビューは‘本格的’であり、レビュー劇団が独立して興行を行っていた浅草レビューは‘ママ事’と看做されていた（高橋桂二、1931、「東劇のレビュー」、『演芸画報』9月号、p.58.）。
- 30) 1930年8月には、帝国館で超モダンバラエテと称してモンテカマタ悩まされ会が出演し、脚線美十数名がエロティックポーズを見せた。舞踊とは断定出来ないので今回は対象外とした。脚部を露出した女性が、次々とポーズを取ったものと推察される。
- 32) 震災により和服の欠点が明白となったところへアップパップが登場し、庶民の女性にも洋服が普及した（鹿野政直、1989、『婦人・女性・おんな』、岩波書店、p.118-119.）。
- 33) 杉山千鶴、1991、「1920年代の軽演劇における舞踊の特性」、お茶の水女子大学人文科学紀要第44巻、p.257.、p.262.
- 34) レビューに必要とされる5S、すなわち(1)スピーディな展開、(2)スペクタクル、(3)ショッキングな内容、(4)スムーズな流れ、(5)スターの存在、が相当する（高木史朗、1983、『レビューの王様』、河出書房新社、p.135.）。
- 35) 山田忠正、1921、「娯楽需要者と浅草」、『改造世界』2月号、p.5.

※ 本稿は、平成8年度文部省科学研究費補助金（課題番号08780111）及び1996年度早稲田大学特定課題研究費助成（課題番号96A-535）を受けて行われた研究の成果である。

年	映画館	種別	出演者	年	月日	映画館	種別	出演者	年	月日	映画館	種別	出演者	年	月日	映画館	種別	出演者		
1928	電気館	舞踊	藤田 蝶舞舞団	1929	5/1	電気館	レグユー	電気館レグユー団	1929	9/29	常盤館	レグユー	東京歌舞合唱団	1930	5/29	電気館	レグユー	藤田 蝶舞舞団		
6/28	電気館	舞踊	柴千代子, 上杉子, 南城リナ子	3/8	浅草劇場	レグユー	レグユー	ゴールデンスター舞踊団	9/24	浅草劇場	舞踊	レグユー	武カオル	6/6	電気館	レグユー	松竹座	松竹座舞団		
8/31~9/20	松竹座	舞踊	オリズム・ア・フォーリー舞踊団	9/26	日本館	舞踊	舞踊	高野野登久子, 吉野八重子也	9/26	松竹座	舞踊	レグユー	世界大同レグユー団	6/6	電気館	レグユー	北村信三, 高井ルビ, 渋谷のり子也	北村信三, 高井ルビ, 渋谷のり子也		
10/12	松竹座	舞踊	オリズム・ア・フォーリー舞踊団	9/28	常盤館	舞踊	舞踊	小むすのゆ少女レグユー団	9/28	常盤館	舞踊	レグユー	東京劇	電気館	レグユー	高野野登久子, 藤野友子	高野野登久子, 藤野友子			
10/19	松竹座	舞踊	オリズム・ア・フォーリー舞踊団	10/3	電気館	ポ・トビ	レグユー	電氣館レグユー団	10/3	松竹座	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	
10/26~31	松竹座	舞踊	オリズム・ア・フォーリー舞踊団	5/10	帝國館	レグユー	レグユー	星澤 克	10/3~9	常盤館	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	河合登子舞団	河合登子舞団	河合登子舞団	河合登子舞団	
11/1	松竹座	舞踊	セルガリアン舞団	5/10	帝國館	レグユー	レグユー	岩井舞團研究員	10/4	常盤館	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	
11/23	松竹座	舞踊	セルガリアン舞団	5/15	日本館	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	10/10	浅草劇場	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	
11/30	松竹座	舞踊	オリズム・ア・フォーリー舞団	5/16~22	松竹座	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	10/10	浅草劇場	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	
12/7	松竹座	舞踊	オリズム・ア・フォーリー舞団	5/16	松竹座	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	10/11	常盤館	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	
12/13	松竹座	舞踊	オリズム・ア・フォーリー舞団	5/17	中央劇場	レグユー	レグユー	石田守衛, 三條八重子也	10/11	常盤館	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
12/20~30	松竹座	舞踊	オリズム・ア・フォーリー舞団	6/18	帝國館	レグユー	レグユー	南栄, 川上俊子也	10/25	浅草劇場	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
12/31	松竹座	舞踊	オリズム・ア・フォーリー舞団	5/22	日本館	レグユー	レグユー	高野野登久子, 吉野八重子, 東山照子	10/30	浅草劇場	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
1929	電気館	舞踊	藤田 蝶舞舞団	5/22	帝國館	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	11/7	松竹座	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	
1/6	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	5/23	帝國館	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	11/7	松竹座	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
1/7	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	5/23	帝國館	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	11/14	松竹座	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
1/11	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	5/23	帝國館	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	11/14	松竹座	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
1/17	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	5/23	帝國館	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	11/21	浅草劇場	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
1/21	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	5/30	帝國館	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	11/21	浅草劇場	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
1/22	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/6	電気館	ポ・トビ	レグユー	松竹座レグユー部	11/22	浅草劇場	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
1/31	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/6	電気館	ポ・トビ	レグユー	松竹座レグユー部	11/22	浅草劇場	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
2/1	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/7	帝國館	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	11/28	浅草劇場	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
2/7	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/7	帝國館	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	12/5	松竹座	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
2/7~13	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/8	浅草劇場	ポ・トビ	レグユー	松竹座レグユー部	12/12	松竹座	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
2/14	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/13	電気館	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	12/13	浅草劇場	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
2/21	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/13	電気館	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	12/19	松竹座	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
2/28	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/14	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	12/28	常盤館	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
3/7	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/20	電気館	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	12/28	常盤館	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
3/14	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/21	浅草劇場	ポ・トビ	レグユー	松竹座レグユー部	1/8~14	浅草劇場	ポ・トビ	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
3/15	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/21	浅草劇場	ポ・トビ	レグユー	松竹座レグユー部	1/10~12	三軒	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
3/21	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/27	松竹座	舞踊	舞踊	松竹座レグユー部	1/15	松竹座	レグユー	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
3/15	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	1/20	浅草劇場	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
3/21	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	1/20	浅草劇場	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
3/25	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	1/20~25	松竹座	レグユー	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
3/28	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	2/6	松竹座	レグユー	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
3/29	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	2/7	常盤館	ハロエティ	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
3/30	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	2/14	浅草劇場	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
4/3	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	2/15~16	日本館	レグユー	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
4/6	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	2/20~26	松竹座	レグユー	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
4/11	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	2/21	常盤館	ハロエティ	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
4/12	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	2/21	常盤館	ハロエティ	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
4/15	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	2/27~3/6	松竹座	レグユー	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
4/19	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	3/6	浅草劇場	舞踊	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
4/24	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	3/27	松竹座	レグユー	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
4/25	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	3/27	松竹座	レグユー	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
4/27	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	4/10	松竹座	レグユー	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座
5/1	松竹座	舞踊	藤田 蝶舞舞団	6/28	浅草劇場	レグユー	レグユー	松竹座レグユー部	4/17	松竹座	レグユー	レグユー	松竹座	松竹座	レグユー	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座	松竹座

表1-1 映画館のアトラクションで上映された舞踊*

年	映画館	種別	出演者	年	月	映画館	種別	出演者	年	月	映画館	種別	出演者	
1930	富士館	常盤座	相良愛子、入江たか子他	1930	11/7	常盤座	レヴュー	白川すみ子、松島栄美子他	1931	4/24	千代田館	レヴュー		
	遊楽館	レヴュー	豊真レヴュー団			松竹座	レヴュー	松竹楽劇部		4/29	大勝館	レヴュー	家元九、銀味小山、壁	
	常盤座	レヴュー	連環二舞團、チェン・ドオヤック	11/14		常盤座	常盤座	松竹楽劇部		4/30	松竹座	レヴュー	松竹楽劇部	
	電氣館	レヴュー	OK、ユース舞踊団	11/21		松竹座	レヴュー	松竹楽劇部		5/16	日本館	レヴュー	和田吾郎とその一党	
	松竹座	レヴュー	藤村信雄、松山浪子	11/27		松竹座	レヴュー	松竹楽劇部		5/18	大勝館	舞踊	南栄子	
	常盤座	レヴュー	ハヤシ舞劇団	12/4		松竹座	レヴュー	ハルビシ舞劇団		5/22	千代田館	レヴュー	マスコッティ舞劇団	
	松竹座	レヴュー	関時男、原純子、若原信子他	12/11		電氣館	レヴュー	新楽情遊花遊		6/13	電氣館	舞踊	ミチオイトウ門下生	
	常盤座	レヴュー	帝キネ花形座	12/18		電氣館	歌劇	杉寛、木村時子他		6/12	帝國館	舞踊		
	開盛館	レヴュー	エロ花遊レヴュー団	12/19		常盤座	レヴュー	帝キネ舞劇家園		6/16	富士館	舞踊	櫻村春子、藤野子	
	大東点	レヴュー	エロ花遊レヴュー団	12/31		大勝館	レヴュー	高田せいで舞劇団		6/19	日本館	舞踊	沼田小、顔とその一党	
	電氣館	歌劇	渋谷のり子、藤田繁、田谷カ三他	1931	1/1	松竹座	レヴュー	松竹楽劇部		6/26	千代田館	レヴュー	チヨダ舞劇団	
	開盛館	レヴュー	レヴュー団第1期卒業生八組	1/15		常盤座	ボードビル	帝キネ舞劇家園		7/11	千代田館	レヴュー	チヨダ舞劇団	
	大東点	レヴュー	エロ花遊レヴュー団			日本館	レヴュー	高田せいで舞劇団		7/15	松竹座	舞踊	東京子	
	常盤座	レヴュー	帝キネ花形座	1/18		大勝館	舞踊			7/15	千代田館	レヴュー	チヨダ舞劇団	
	遊学館	レヴュー	河合俊子舞劇団、沢カオル舞劇団他	1/19		松竹座	レヴュー			8/14	千代田館	レヴュー	チヨダ舞劇団	
	大東点	レヴュー	藤原美子、河合俊子舞劇団	1/19		常盤座	ボードビル	帝キネ舞劇家園		9/1	帝國館	舞踊	川田芳子、藤田房子、藤田陽子	
	大東点	レヴュー	エロレヴュー団	1/19		日本館	舞踊	片岡左衛門、久世小波子他		9/6	帝國館	舞踊	川田芳子、藤田房子、藤田陽子	
	松竹座	レヴュー	松竹楽劇部	1/19		松竹座	レヴュー	松竹楽劇部		9/16	富士館	レヴュー		
	開盛館	舞踊	九賢舞劇団	1/28		松竹座	レヴュー	松竹楽劇部		10/24	帝國館	舞踊	金剛玉枝、田谷カ三	
	常盤座	レヴュー	渡邊スピド劇団	2/1		浅草館	レヴュー	松竹楽劇部		10/31	帝國館	舞踊	金剛玉枝、田谷カ三	
	大東点	レヴュー	島田、伊沢鏡子他	2/4		松竹座	レヴュー	松竹楽劇部		11/6	帝國館	舞踊		
	松竹座	レヴュー	松竹楽劇部	2/6		浅草館	レヴュー	松竹楽劇部		11/14	帝國館	舞踊	藤川政弥	
	大東点	レヴュー	常盤座	2/11		松竹座	レヴュー	松竹楽劇部		12/4	帝國館	舞踊	船島鏡子	
	大東点	レヴュー	島田、伊沢鏡子他	2/18		浅草館	レヴュー	田中寿々子他		12/11	帝國館	舞踊	船島鏡子	
	開盛館	レヴュー	常盤座、ハヤシ舞劇団	2/19		松竹座	レヴュー	松竹楽劇部		1932	大勝館	レヴュー	松竹楽劇部	
	常盤座	レヴュー	南栄子	2/20		大勝館	レヴュー	ハワイ人ガリー一行、南栄子		2/4	帝國館	舞踊	若水絹子、照子、藤田藤雄美女座	
	遊学館	レヴュー	アライコ、レヴュー団	2/20		常盤座	レヴュー	帝キネ舞劇家園		2/4	電氣館	オペレッタ	松竹楽劇部	
	松竹座	レヴュー	通楽劇団、三ツ葉舞劇団、山野一郎	2/25		遊楽館	レヴュー	遊楽レヴュー団、神田鏡子		2/8	帝國館	レヴュー		
9/24	松竹座	レヴュー	羽田歌劇団	2/28		松竹座	レヴュー	松竹楽劇部		2/27	帝國館	舞踊	栗島すみ子	
9/28	常盤座	レヴュー	アオハ少女舞劇団、青葉美人、舞劇団	2/28		大勝館	レヴュー	日本舞踊舞劇団		3/31	日本館	舞踊		
	常盤座	レヴュー	カルトラ座	2/27		松竹座	レヴュー	松竹楽劇部		4/11	河合キネマ	レヴュー	河合菊二郎	
	日本館	レヴュー	青春座	3/1		松竹座	レヴュー	松竹楽劇部		4/7	電氣館	舞踊	ヤエコオカメト	
10/1	電氣館	舞踊	北村舞劇団	3/4		常盤座	レヴュー	帝キネ舞劇家園		4/9	帝國館	舞踊	浅初夢子	
	松竹座	レヴュー	ルース・ヴァン・ヴァリー・レヴュー団	3/5		松竹座	レヴュー	松竹楽劇部		5/05	常盤座	舞踊	松鏡子	
	開盛館	レヴュー	羽田歌劇団	3/6		大勝館	舞踊	河上鈴子		6/3	帝國館	舞踊	高尾光子、若水照子	
	常盤座	レヴュー	帝キネ花形座	3/13		常盤座	プロローグ	帝キネ舞劇家園		7/29	帝國館	レヴュー	浅初夢子、永入保良子他	
10/3	松竹座	レヴュー	青春座	3/13		大勝館	レヴュー	河上鈴子、春野芳子		8/4	電氣館	舞踊		
	常盤座	レヴュー	帝キネ舞劇家園	3/18		常盤座	レヴュー	帝キネ舞劇家園		8/12	帝國館	レヴュー		
	日本館	レヴュー	松竹楽劇部	3/19		常盤座	レヴュー	松竹楽劇部		9/1	日本館	舞踊	ロンアア兄弟舞劇家	
10/8	富士館	レヴュー	松竹楽劇部	3/20		大勝館	レヴュー	春野芳子		9/18	帝國館	ボードビル	なやまし安重、佐久間紗子	
10/10	松竹座	レヴュー	青春座	3/25		常盤座	プロローグ	帝キネ舞劇家園		10/13	電氣館	ボードビル	井口鏡波とその一党	
10/15	遊学館	舞踊	松木とどり、大金光子合同舞劇団	3/27		富士館	レヴュー	帝キネ舞劇家園		1933	11/4-16	帝國館	舞踊	伊豆下田美人芸者
	松竹座	レヴュー	松竹楽劇部	4/1		電氣館	ボードビル	ケアラルフル・ビストゥー一行		2/12	帝國館	舞踊	伊豆下田美人芸者	
10/17	常盤座	レヴュー	帝キネ舞劇家園	4/1		常盤座	レヴュー	松竹楽劇部		2/19	帝國館	舞踊	岡田高子	
	日本館	レヴュー	青春座	4/8		松竹座	レヴュー	松竹楽劇部						
10/23	松竹座	舞踊	春野芳子舞劇団	4/8		常盤座	レヴュー	松竹楽劇部						
	松竹座	レヴュー	松竹楽劇団	4/9		常盤座	レヴュー	松竹楽劇部						
10/24	常盤座	レヴュー	日本レヴュー劇団	4/15		大勝館	舞踊	河上鈴子						
10/28	日本館	レヴュー	青春座	4/15		電氣館	ボードビル	ケアラルフル・ビストゥー一行						
10/31	常盤座	舞踊	若柳一門、帝キネ舞劇家園	4/22		常盤座	レヴュー	帝キネ舞劇家園						
	松竹座	レヴュー	松竹楽劇部	4/22		電氣館	レヴュー	日劇舞劇団						
11/1	日本館	レヴュー												

表1-2 映画館のアトラクションで上演された舞踊**

** 1928年6月～1933年3月の都新聞東京版の上映広告、遊覧案内欄、及び演芸欄の記事に掲載された映画館アトラクションから、浅草の映画館で上演された、舞踊及び舞踊を含む演目(レヴュー、ボードビル、バラエティ、オペレッタ等)を全て抽出して作成した。